Ⅰ　学校の概要

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業　**丸亀市立飯山北小学校**

◆児童数及び教員数

〇児童数

第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年	特別支援	全　校
３学級 ９４名	３学級 ９４名	４学級 １０６名	３学級 １０５名	４学級 １１２名	３学級 １０４名	５学級 ２１名	２５学級 ６３６名

〇教員数　３４名

◆学校の特色

本校の児童は，明るく活発で意欲的に学習に取り組む児童が多い。その反面，自分の考えや思いを相手に伝えることが苦手で，自尊感情が低い傾向にある。そこで，本校は，平成 25 年度から 27 年度まで，主体的に学ぼうとする意欲を高め，考える力(思考力)を身に付けることを目指し，授業改善に取り組んできた。３年間の研究の成果として，教師が授業の中で児童に付けたい思考力を明確に意識することで，より具体的な学習活動や，思考力の見取りに繋げることができた。また，一昨年度より，朝の時間に「なかよしタイム」として，ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンター等の活動を行い，児童の居場所づくりに取り組んでいる。これらの仲間づくりの活動を通して，児童が安心して発言できる環境ができ，学び合いの土壌である友達を認め受け入れる，共感的な人間関係を目指している。さらに，28 年度からは，自分の考えを友達に伝えること，友達の意見をしっかり聴くことに重点を置き，児童が主体的に取り組む交流活動の在り方について研究を進めてきた。しかし，自分の考えを書いたり話したりすることに自信を持って取り組める児童がまだまだ少ないことが課題である。

Ⅱ　研究主題等

研究主題　**自ら考え 共に学ぶ 児童の育成**

－各教科の「見方・考え方」を働かせる学習過程の工夫－

◆研究主題設定の理由

新学習要領改訂においては，「未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることができる学校教育を実現する」ことが求められ，「どのように学ぶか」が問われている。そこでは，「主体的・対話的な深い学び」の視点からの授業改善が必要不可欠となってくるのである。実際の指導場面に照らし合わせて言い換えれば，獲得した知識を関連付けたり，技能を活用したりして自分が思考したことを表現する力が必要であり，新学習指導要領で示されている「見方・考え方」を働かせることが強く求められてくるのである。

そこで本年度の研究主題を，「自ら考え，共に学ぶ児童の育成　－各教科の『見方・考え方』を働かせる学習過程の工夫－」とする。学習過程の「見通し」をもつ段階では，「挑戦意欲や知的好奇心をかき立てる課題の設定により，主体的に学ぶ意欲を喚起させる」ようにする。「探究」の段階では，「効果的かつ必要感のある交流の場を設定し，思考を広げ・深める学習活動の創造を目指す」ようにする。終末の「振り返り」の段階では，「学習活動を通して生まれた気付きや，学習の成果を実感させる活動の浸透を意識する」ことにより，「主体的・協働的で深い学び」を目指す。

◆研究内容及び方法

１．研究内容

自ら考え，共に学ぶ児童を育成するために，各学年部会と，知徳体の３部会により以下の４つの研究仮説を設定し，授業研究を通して仮説を実証していく。

〈研究仮説〉

（１）　挑戦意欲や知的好奇心をかき立てる課題の設定により，見通しを持って主体的に学ぶ意欲が喚起できるだろう。

（２）　効果的かつ必要感のある交流の場の設定により，思考を広げ・深める学習活動を創造できるだろう。

（３）　学習活動を通して生まれた気付きや，学習の成果を実感させる活動により，学習内容を浸透できるだろう。

（４）　話し合い活動を活性化させるための「学びの基盤づくり」により，学びの環境が整備されるだろう。

〈研究方法〉

○　授業改善について

・学年団ごとに，授業研究の実践・研究を行う。
・授業研究の際には，事前授業を行い，各学年や教科の特質に応じた教育実践の提案・改善を行う。
・研究授業を通し，各教科の「見方・考え方」について検討をする。
・各学年の発達段階や教科の特性に応じた振り返り活動の在り方について検討する。
・学習したことを振り返り，共有する場の設定をする。
・児童の思考を深める構造的な板書を検討する。

○　学びの基盤づくりについて

育成３部会の重点事項

・　ひとを思いやる子　　・相手のことを考えて行動する。
　　・気持ちのよいあいさつをする。
　　・進んで係活動やボランティアに取り組む。
・　よく考える子　　・学習の基本となる家庭学習の習慣化を目指す。
　　・相手の話を最後まで聞き，自分の考えを持ち，伝える。
　　・「考えをかく（書く・描く）」習慣を身に付ける。
・　しんぼう強くがんばる子　　・黙って時間いっぱい清掃をする。
　　・体力づくりのめあてに向かい，がんばる。
　　・身だしなみや生活上の約束事を守る。

〈育成３部会の具体的取組〉

ひ部会	ペア活動	ペア遠足，ペア給食，なかよく遊ぼうデー，ペア読書
	あいさつ運動	あいさつ週間，あいさつボランティア
	よいところ見つけ	やさしさ見つけ，キラリさん見つけ，なかよしゆうびん など
	なかよしタイム	ソーシャルスキルトレーニング，構成的グループエンカウンター
よ部会	基礎学力の定着	学級の時間，水曜勉強会，ももんタイム（全校ドリルタイム）
	学習習慣の定着	学習がんばり週間，宿題提出 100％
	読書	朝の読書タイム，ブックワゴンの活用，読み聞かせボランティア
	自己の振り返り	自分ノート
し部会	清掃	掃除の取りかかり，黙目清掃，お掃除ももんシール
	体力づくり	がんばりカード（水泳・なわとび） 給食全部食べようデー，元気カード
	姿勢	立腰タイム，学校保健委員会

Ⅲ　研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

１（児童質問紙）話し合う活動を通じて，自分の考えを広げたり，深めたりすることができていますか。

指標　　「①できている＋②どちらかといえばできている」の合計

５月調査	→	目標値	→	11 月調査
73.9%		80.0%		79.3%

指標の達成に向けた実践

効果的かつ必要感のある交流の場の設定

○　６年社会科「武士の世の中へ」の学習では，源頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由について，当時の頼朝を取り巻く状況や地理的要因に目が向くような資料を全員に配布し，頼朝の考えを辿ることを通して，主体的に課題解決できるようにした。

グループでの話合いでは，当時の鎌倉の地形が分かる写真や，御家人の配置が分かる地図を用いて，空間的，人的な広がりから課題解決させた。また，平氏の政治や貴族の暮らしと比較できるような資料を用意し，友達の考えを聞いたり，自分の意見を伝えたりする中で，時間的な視点からも学習課題に迫った。またグループ交流では，資料を挟んだホワイトボードを使用した。一つのホワイトボードを班員全員で囲み，お互いの意見を比較したり，統合したりしながら話し合う姿が見られた。

【グループ交流の様子】

【児童がまとめたホワイトボード】

○　４年道徳科「自分の生活を見つめ直して」の学習では，本教材の重点内容項目「節度・節制」について，主人公やお母さん・おばあちゃん・さちこさんの考え等，様々な立場から多面的に考えてさせることをねらった。全体交流では，自分と似たような体験をしたお父さんの話を聞いた後の場面で，「お父さんの話を聞いた時，まゆみはどんなことを考えていただろう。」という中心発問について考えていった。父の話をきっかけに「本当にあの筆箱が必要なのか」ということについて，「必要」「迷う」「必要ではない」の３つの立場に分かれて，まゆみの気持ちを想像させた。全体交流では，まゆみとさちこの役割表現をすることで，友達に誘われた時の，「断る難しさ」や「やはりお揃いが欲しい」という揺れ動くまゆみの気持ちを語り合う中で，本音を引き出すようにした。そして，欲しい物が，自分にとって本当に必要かどうかを考えることの大切さに気付かせた。その際，「本当に筆箱が友達の証拠なのか。」と補助発問をすることで，「本当の友達とはどのようなものなのか」という部分について考えさせると同時に，「お母さんには関係のないことなのか。」と補助発問することで，今使っているものは親が働いたお金で買ったものだから，大切にしなければいけないという「親や物への感謝」という意識にも目を向けさせることができた。

２（児童質問紙）授業の最後に，学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。

指標　「①取り組んでいる＋②どちらかといえば取り組んでいる」の合計

５月調査	→	目標値	→	11 月調査
69.5%		80.0%		84.0%

指標の達成に向けた実践

気付きや，学習の成果を実感させる振り返り活動

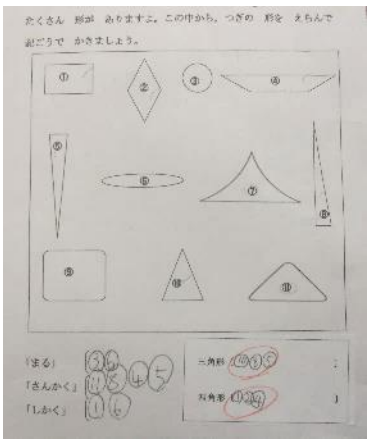
○　２年算数科「三角形と四角形」の学習では，

本単元前に実施したプレテストでは，辺の切れた三角や曲線の入った四角を，三角形や四角形と捉える誤答が多かった。そこで，本時の振り返りでプレテストを修正する際には，正確に弁別ができることを目標とした。

振り返りでは，単元が始まる前に実施したプレテストを修正する活動を行った。これらの活動によって，授業中に分かった三角形，四角形の定義に沿った弁別だけでなく，授業前と授業後の自分を比べて，学びの伸びを感じさせることができると考えた。

すると，「前は角度が変わっていたら三角形や四角形ではないと思っていたけれど，角度が変わっていても直線で囲まれていたら三角形や四角形と分かるようになりました。」や「３本の直線で囲まれていることに気を付けたら前は２つ間違えていたけれど勉強が終わったら全部できるようになりました。」などと振り返る児童が見られ，算数科の「見方・考え方」を働かせて考えたことを基に，授業で成長している自分を実感させることができた。

【児童の振り返り】



【プレテスト】

◆特徴的な取組

1　学級での居場所づくりを目指して

（1）友達のよさを見付け支持的風土を作るための「なかよしタイム」の取組

①　よいところ見つけ

朝の「なかよしタイム」の中に月１回程度「友達のよいところみつけ」の時間を位置付け，全校で取り組んでいる。学習，清掃，給食，学校行事，休み時間などのことで発達段階に合わせて良いところを見付け合い，各学級のコーナーに掲示している。繰り返し行い積み重ねていくことで，友達のよさだけでなく，自分のよさに気付くこともできるようになってきており，自尊感情を高めることに役立っている。

○　下学年

友達の言動に関心を持って接するようになり，少しずつ友達の良いところを見付けられるようになっている。

また，良いところを伝えてもらった児童はうれしそうにしており，気付いていなかった自分のよさに気付くことができるようになってきた。

○　上学年

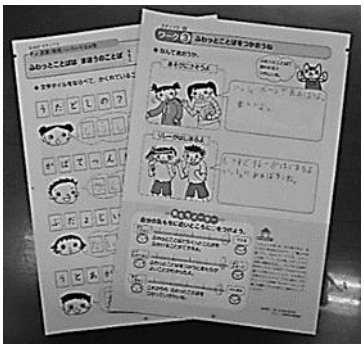
普段なかなか言葉で伝えられない友達のよさも「よいところみつけ」を通してなら伝えやすいという児童も多い。伝えられた児童は，自分の頑張りを友達に認められたことで，クラスや学校に貢献した，という自信につながってきている。友達の良いところを見付けにくい児童は，行事の後に書くという習慣にすることで，友達の言動に着目しながら行事に参加するようになってきている。

②　ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンター

本校児童の課題の一つに，自尊感情の低さが挙げられる。その原因の一つに，うまく対人関係を築けなかったためにトラブルに発展するケースが考えられる。そこで，毎月第１・第３火曜日の「なかよしタイム」には，ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを実施している。仲間づくりの学習や活動を通して人との関わり方を学び，自尊感情や人権感覚の向上を図っている。

今年度，ソーシャルスキルトレーニングのワークシートを購入し，年８回計画的に活用するように位置付けた。なかよしタイムの始めに全校放送で「今日は，〇〇をしましょう。」と知らせ，学級で取り組むようにしている。

また，学校行事との関連を考えて「よいところ見つけ」を行ったり，学期の終わりには構成的グループエンカウンターを行ったりして関係づくりに取り組んでいる。



【ソーシャルスキルトレーニングのワークシート】

【構成的グループエンカウンター紙コップ運びをする児童】

③　なかよしアンケート

第２火曜日は，「なかよしアンケート」を行い，児童の抱える悩みやトラブルの早期発見に努めている。月に一度のペースで学級内の人間関係を把握することで，交流活動を中心とした授業づくりにも生かせるようになった。

２　考えを持ち・話し合う活動の基礎となる力の育成を目指して

（１）　基礎学力の定着を図る取組

①　週時程の工夫

本校では，週時程上に「学級の時間」や「水曜勉強会」を位置付けて，補充学習を必要とする児童を中心に学力や学習意欲を向上させる取組を行っている。

【水曜勉強会の様子】

○　「学級の時間」

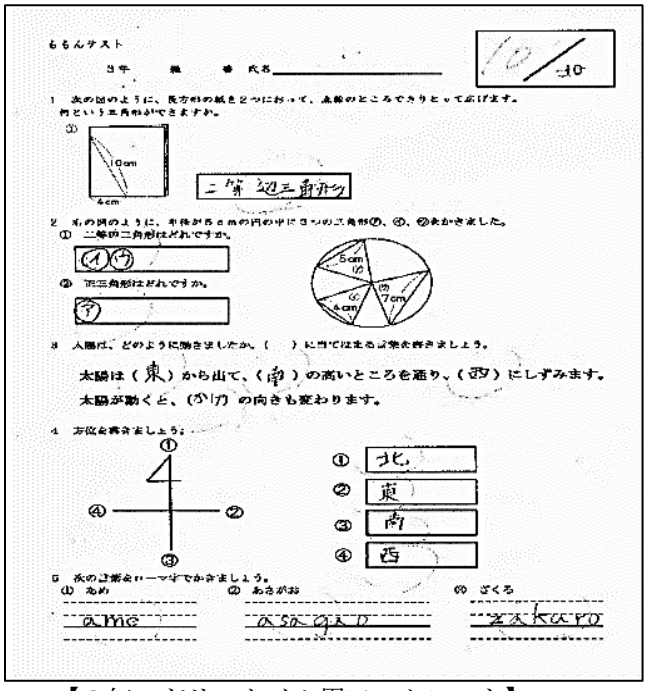
平成２５年度より，毎週月曜日の放課後の時間を使って，学級毎に個別指導をしている。少人数のため，その子に合わせた内容の学習ができることや十分な時間を取ってじっくりと学習できるよさがある。分かる喜びを実感する児童も見られる。

○　「水曜勉強会」

平成２４年度より，水曜日の放課後（年間 20 回程度）の時間（14:40~16:00）を使って，６年生の希望者を対象（今年度は 14 名）に勉強会を計画し，スクールサポーター（地域のボランティアや元教員）に，指導してもらっている。百マス計算や自分の課題に取り組むことで，基礎的な学習内容を身に付け，苦手意識を少しずつ克服して自信を付け，学習に前向きに取り組もうとする意欲を高めることができている。

②　ももんタイム（月末の全校ドリルタイム）

意欲的に授業に参加する児童を育成していくためには，基礎となる力が身に付いておかなければならない。そこで，ドリルタイムでは，漢字や計算を中心に，同じ問題を使って反復してドリル学習に取り組んでいる。さらに，月末の全校ドリルタイム（火曜日）を「ももんタイム」とし，これまでのドリル学習の確認テストを行っている。そのテストで満点を取ると飯北小オリジナルの「ももんスタンプ」がもらえるようにして意欲付けを図っている。


ももんテスト

３年　　組　　番　氏名

10

1　次の図のように，長方形の紙を２つに折って，点線のところできりとってあげます。何という三角形ができますか。

①

10cm

4cm

二等辺三角形

2　右の図のように，半径が5cmの円の中に3つの三角形①，②，③をかきました。

①　二等辺三角形はどれですか。

①③

②　正三角形はどれですか。

②

5cm

6cm

7cm

3　太陽は，どのように動きましたか。（　　）に当てはまる言葉を書きましょう。

太陽は（東）から出て，（南）の高いところを通り，（西）にしずみます。

太陽が動くと，（かげ）の向きも変わります。

4　方位を書きましょう。

①　②　③　④

① 北

② 東

③ 南

④ 西

5　次の漢字をローマ字でかきましょう。

① あめ　ame

② あさがお　asagao

③ ざくろ　zakuro

【３年　ドリルタイム用ワークシート】

同じ問題に繰り返し取り組むことで，基礎的な学力が身に付いてきている。

【ももんスタンプ】

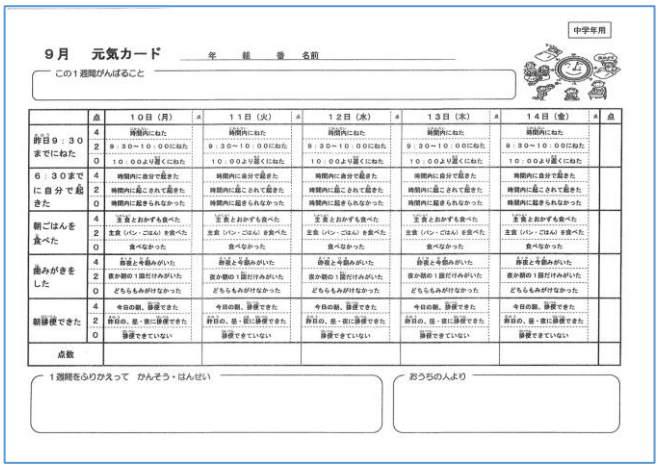
３　心と身体を整え，めあてに向かって頑張る力の育成を目指して

（１）　生活リズムを整え，正しい姿勢を身に付ける取組

① 元気カード

児童一人一人が元気に過ごすには，心が安定し自分を大切にすることができていることが重要であると考えている。そこで，よりよい生活習慣を身に付けようとする意欲と態度を高めるために，「早寝，早起き，朝ごはん，歯磨き，排便」について元気カードによる振り返りを年２回実施している。

個別の結果についてはデータ入力して，全校生の生活習慣が把握できるようにしている。パーフェクトの児童には，保健委員会からミニ賞状が渡され励みにしている。また「保健だより」にクラスと名前を掲載して賞賛することにより，更なる意欲付けも行っている。


中学年用

９月　元気カード　　年　組　番　名前

この１週間がんばること

	点	１０日（月）	点	１１日（火）	点	１２日（水）	点	１３日（木）	点	１４日（金）	点	点
昨日９：３０までにねた	4	時間内にねた		時間内にねた		時間内にねた		時間内にねた		時間内にねた		
	2	９：３０～１０：００にねた		９：３０～１０：００にねた		９：３０～１０：００にねた		９：３０～１０：００にねた		９：３０～１０：００にねた		
	0	１０：００より遅くにねた		１０：００より遅くにねた		１０：００より遅くにねた		１０：００より遅くにねた		１０：００より遅くにねた		
６：３０までに自分で起きた	4	時間内に自分で起きた		時間内に自分で起きた		時間内に自分で起きた		時間内に自分で起きた		時間内に自分で起きた		
	2	時間内に起こされて起きた		時間内に起こされて起きた		時間内に起こされて起きた		時間内に起こされて起きた		時間内に起こされて起きた		
	0	時間内に起きられなかった		時間内に起きられなかった		時間内に起きられなかった		時間内に起きられなかった		時間内に起きられなかった		
朝ごはんを食べた	4	主食とおかずを食べた		主食とおかずを食べた		主食とおかずを食べた		主食とおかずを食べた		主食とおかずを食べた		
	2	主食（パン・ごはん）を食べた		主食（パン・ごはん）を食べた		主食（パン・ごはん）を食べた		主食（パン・ごはん）を食べた		主食（パン・ごはん）を食べた		
	0	食べなかった		食べなかった		食べなかった		食べなかった		食べなかった		
歯みがきをした	4	朝夜と今歯みがいた		朝夜と今歯みがいた		朝夜と今歯みがいた		朝夜と今歯みがいた		朝夜と今歯みがいた		
	2	夜か朝の１回だけみがいた		夜か朝の１回だけみがいた		夜か朝の１回だけみがいた		夜か朝の１回だけみがいた		夜か朝の１回だけみがいた		
	0	どちらもみがけなかった		どちらもみがけなかった		どちらもみがけなかった		どちらもみがけなかった		どちらもみがけなかった		
朝排便できた	4	今日の朝、排便できた		今日の朝、排便できた		今日の朝、排便できた		今日の朝、排便できた		今日の朝、排便できた		
	2	昨日の、昼・夜に排便できた		昨日の、昼・夜に排便できた		昨日の、昼・夜に排便できた		昨日の、昼・夜に排便できた		昨日の、昼・夜に排便できた		
	0	排便できていない		排便できていない		排便できていない		排便できていない		排便できていない		
点数												

１週間をふりかえって　かんそう・はんせい

おうちの人より

【元気カード】

② 立腰タイム

良い姿勢が保てるようにと，４年前から体育館朝会や朝の健康観察の時間に「立腰タイム」を位置付け，継続して実施している。

毎週，金曜日の全校朝会で，保健委員が前に立ち「立腰タイム」を呼び掛けると，全校生が背筋を伸ばし，目を閉じ，心を落ち着かせる１分間が始まる。

学級で朝の健康観察を実施する時にも，「立腰タイム」を取り入れている。目を閉じて，心を落ち着かせることにより，落ち着いた１日をスタートさせると同時に，自分の心身の状態を感じ，体調に気付く機会となっている。

また，必要に応じて授業の始まりや途中にも，短時間の「立腰タイム」を取り入れることにより，心を落ち着けることができている。

【体育館朝会での立腰タイム】

立腰の効果

1. やる気がおこる
2. 集中力が出る
3. 持続力がつく
4. 頭がすっきりする
5. 勉強が楽しくなる
6. 成績もよくなる
7. 行動がすばやくなる
8. バランスがよくなる
9. 内ぞうの働きがよくなる
10. スタイルがよくなる

（２）　場所を清め，心を耕す清掃活動

① 掃除の取り掛かり

時間いっぱい掃除ができるように，予鈴の後，音楽を流し，その間に掃除場所に行くように指導を続けている。

② 黙目清掃

黙って掃除をするために，白帽着用を続けている。黙って集中している心を表す白帽子を着用することで，一人一人の掃除への意識を高めている。

【集中して掃除をする児童】

③ 掃除分担カード

掃除場所の目に見える所に掃除分担カードを掲示し，担当区域への責任の気持ちを高めるようにしている。また，学期始めに，掃除場所ごとにめあてを立て，仲間と協力して掃除しようという意識も育てている

【清掃分担表示カード】

Ⅳ　研究の成果と課題

【授業改善について】

１　児童が思考している姿をイメージして作られた指導案

学習指導案に，「付けたい力」として，「各教科の見方・考え方」，「本時で働かせる見方・考え方」，「概ね満足できる状況の児童の姿」を明記することによって，何に目を付け，どう考え，どう表現するのかを明確にして授業に臨むことができた。

２　挑戦意欲を継続させる課題の設定と課題解決を見通せる板書やワークシート

第５学年算数科の実践では，「前時に見付けた決まりは，数が変わっても通用するのか？」という前時を受けての課題が設定された。板書には，数が変わったときの式を縦に並べて比較しやすくして，変わる部分と変わらない部分を話し合うことにより，変わる部分は「一辺の●の数」であるという，一般化につなげる考え方を持たせることができた。

３　視点を広げたり，多角的に考えたりするための交流活動における教師の仕掛け

第４学年道徳の実践では，「おそろいの筆箱は友達の証拠。だから一緒に買おう。」と誘われた時の判断について考えた。役割表現をすることによって，多くの児童が自分の価値判断を素直に表出し，「断るのは難しいから買う」という意見が増えていった。そこで，「お母さんには，本当に関係のないことなのですか？」と，親の視点という用意していた補助発問を投げ掛けることによって，「親が働いたお金で買ったもの」「今使っているものを大切にする」などの，多角的な考えを持たせることができた。

４　相互関係を視覚化し，思考を深める構造的な板書

第６学年社会科の実践では，源頼朝が鎌倉に幕府を開いた理由を，時間・空間・人の視点から資料を読み取ることはできたが，それらを関連付けて理由を考えることが難しかった。そこで，全体交流の際，読み取ったことを板書上で矢印や線で結び，相互関係を視覚的に分かりやすく示したことによって，複数の視点から理由を考えることができた。

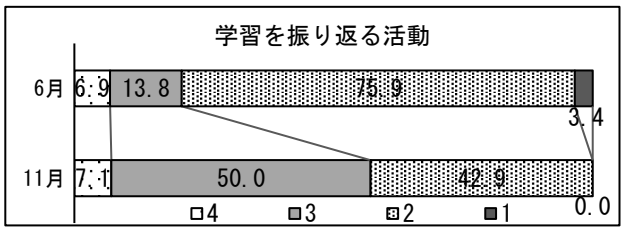
５　低学年児童も自分の学びを振り返ることができる具体的な活動

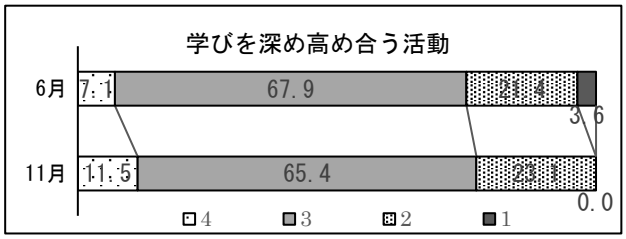
第２学年の算数科の実践では，単元に入る前に実施したプレテストを本時の学習後にもう一度実施するという学習活動を試みた。学習前は，曲線の混じった図形や隙間の空いた図形を三角形，四角形と考えていた児童が，学習後には正しく弁別し，振り返りでは，「３本の直線で囲まれていることに気を付けたら，全部できるようになりました。」等と自分の成長を実感した言葉を記述した。

６　教員の意識の向上

６月と 11 月に実施したアンケートでは，「授業の最後に学習を振り返る活動を行っているか」に対して，「よく行っている」と「どちらかといえば行っている」と答えた教員が，20.7%から 57.1%に上昇した。教員の中に振り返り活動が次第に日常化してきたことが窺える。

また，「学びを深め高め合う活動ができているか」に対して，「よくできている」「できている」と答えた教員も僅かであるが増加し，「全くできていない」と答えた教員がいなくなった。引き続き，「深い学び」について研究を続け，学びの質を高める授業改善に繋げていきたい。





【学びの基盤づくりについて】

１　落ち着いた学習環境をもたらした支持的な学級風土づくりの取組

ソーシャルスキルワークの活用により，取組による学級差がなくなり，今までに比べると，支持的な学級風土づくりが促進され，落ち着いた雰囲気が見られるようになった。

２　「学習がんばり週間」や「学級の時間」の取組により，更なる基礎学力の定着

「学習がんばり週間」の取組により，日常の宿題の提出率も向上した。「学級の時間」の活用の仕方や徹底により，更なる全体の底上げを図りたい。

３　日常化を目指す体力つくりや生活習慣つくりの取組

「がんばりカード」や「元気カード」の取組は，一時的な児童の頑張りを生み出すが習慣化されたものになっているとは言えない。継続して自分から頑張れるように，働き掛けを工夫する。